

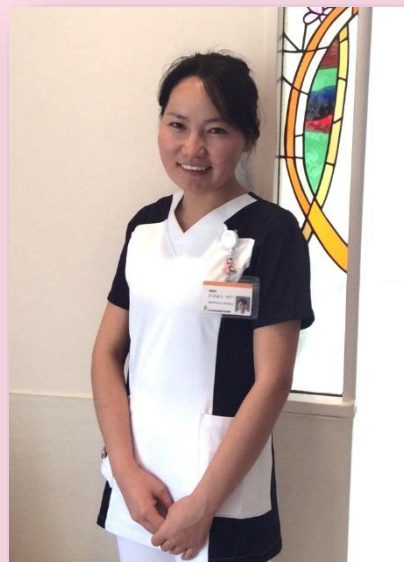
## 看護師になって良かった



立正佼成会では 2009 年からモンゴルの医療・看護発展への貢献を目的に「モンゴル看護師育成支援プロジェクト」を実施しています。モンゴル国立医学大学看護学校からの留学生を佼成看護専門学校が受け入れ、国家資格を取得後、佼成病院で勤務します。帰国後、医療・看護の発展に貢献できる人材を育成します。

### 『看護師になろうと思ったきっかけ』

私が幼い頃、母が大腿骨骨折の治療のため、ロシアの病院に通っていました。治療はなかなかうまくいかず、長期にわたり通院している姿を見て、「母を治してあげたい、医師になろう」と思ったのが最初です。しかし医師育成の大学には合格せず、準医師コースの学校で学ぶことになりました。もともとボランティア活動をしていたこともあり、そこでもレッドクロスクラブを立ち上げ活動していました。私を見ていた教員が「あなたにはリーダーシップがある。教員になったらどうか。」と勧めてくれました。看護師育成プロジェクト・留学という道を提示され、その時の私は軽い気持ちで了承しました。準医師コースは中断、留学試験合格後、すべてが決まってから両親に報告したため、両親を非常に驚かせてしまいました。



同プロジェクト 1 期生の紹介  
カンチュルーン サンバーさん

### 『日本に来るまで・看護専門学校時代』

言葉もまったく分からないまま日本に来てしまったので、最初の 1 年 3 ヶ月は日本語学校に通いました。その後、佼成看護専門学校に入学し 3 年間の看護学生生活を送りました。日本語学校で日常会話は習得したものの、医療用語を理解するのがとても大変でした。

そんな私が日本の国家試験に合格出来たのは、看護学校のある先生のお陰です。その先生は授業が終わった後、自分の時間を割いて私の試験対策・指導をしてくれました。定年後の今もいろんな意味で私をサポートしてくれ、日本の家族のような存在です。

### 『佼成病院の看護師になる』

今年の 4 月に就職しました。気持ちには波があります。最初は看護師になれたうれしさ、患者さんから「看護師さん」と呼ばれてかなり浮かれていました。しかし、現実を思い知り落ち込んだ時期もありました。覚えることがたくさんある、出来ないことだらけ、スタッフの足手まといではないのか、と。言葉の壁もそうですが、文化の違いを感じたことも少なくありません。私に

とっては何でもない事が、相手にとっては非常に重要だったり、またその逆もあり戸惑う場面もありました。

それでも半年経った今は出来ることも増え、それが自信に繋がってきています。周囲と比べるのではなく、自分のペースでやっていくよう心がけるようになりました。大変なこともあります、辛くて辞めたいと思ったことは1度もありません。



同じ病棟の師長、主任とともに  
和やかな雰囲気！

### 『スタッフとの交流』

何も出来ない私を師長さんはじめスタッフみんながサポートしてくれます。私が出れるまで待ち、必要な支援をしてくれ、そのお陰で成長を感じることが出来ています。

同期のスタッフとは一緒に勉強もするし、食事にも行きます。先日は休みを利用してプールにも行きました。いろんな事を話せる仲間です。



### 『私の存在価値』

私が国家試験に合格し看護師として就業出来なければ、後に続く人の道を壊すことになるかも知れない。大きな希望を抱いて日本に来たいと思っている人の夢を潰してはいけない。1期生としてのそんなプレッシャーはありました。今のところ役割は果たせていると思います。

患者さんから必要とされ、それが自分のパワーになります。看護師になって本当によかった。3年経過したら日本の大学院で学び、その後モンゴルで看護の教員として活躍したいというのが今の夢です。

